

令和4年度全国学力・学習状況調査における 岡崎市立小中学校児童生徒の結果について

岡崎市教育委員会

1 調査分析概要（全国の平均正答率と比較して）

(1) 全体の様子

小学校においては、国語の「書くこと」が「よくできている」、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が「できている」状況である。算数の「図形」は「たいへんよくできている」、「数と計算」「データの活用」が「よくできている」、「変化と関係」が「できている」状況である。理科は「『粒子』を柱とする領域」で「努力を要する」、その他の項目は「できている」状況である。

中学校においては、国語の「話すこと・聞くこと」が「よくできている」「書くこと」「読むこと」が「できている」状況である。数学は「数と式」「データの活用」が「たいへんよくできている」「図形」「関数」が「よくできている」状況である。理科は、「『エネルギー』を柱とする領域」「『生命』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」が「たいへんよくできている」、「『粒子』を柱とする領域」が「できている」状況である。

(2) 小中学校別各教科に関する問題の様子

《小学校6年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<p><u>できている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く力がたいへん優れている。 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力がたいへん優れている。 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力がやや弱い。 学年別配当漢字表に示されている漢字を、文の中で正しく使う力が弱い。
算数	<p><u>できている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する力がたいへん優れている。 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察、記述する力がたいへん優れている。 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する力が弱い。 百分率で表された割合を分数で表す力が弱い。
理科	<p><u>できている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 水が蒸気になって、空気中に含まれていることについて、たいへんよく理解している。 自分で発想した実験方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができている。 昆虫の体のつくりについての理解が弱い。 メスシリンダーなど器具の正しい扱い方を理解して実験を行う力が弱い。
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童は、そうでない児童に比べ正答率が高い。睡眠時間を十分に確保し、規則正しい生活を送れている児童が、高い正答率を得ている。 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」児童は、「そう思わない」児童に比べ、正答率が高い。友達と意見を聞かせたり自分の考えを主張したりすることができる児童が、高い正答率を得ている。 新聞を読む頻度が高くなると、正答率も高くなる傾向にある。
生活状況	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる児童の割合は、全国平均を上回っている。 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童の割合は、全国平均を下回っている。

《中学校3年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<p><u>よくできている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について、たいへんよく理解している。 ・論理の展開などに注意して聞く力がたいへん優れている。 ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える力がたいへん優れている。 ・事象や行為、心情を表す語句について、やや理解できていない。
数学	<p><u>たいへんよくできている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然数を素数の積で表す力がたいへん優れている。 ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取る力がたいへん優れている。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力が身に付いている。 ・証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を理解する力が身に付いている。
理科	<p><u>たいへんよくできている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その関係について説明する力がたいへん優れている。 ・節足動物とアリの外部形態を比較して、共通点と相違点を捉える力がたいへん優れている。 ・日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象について、知識及び技能を活用する力がたいへん優れている。 ・液体が気体に変化する状態変化について、知識、技能を活用する力がやや弱い。
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝食を毎日食べる」「起床時刻が決まっている」「就寝時刻が決まっている」など、規則正しい生活を送る生徒の方が、高い正答率を得ている。 ・「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問に対して、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒が、全国平均を大きく上回る結果となった。 ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」生徒ほど、正答率が高い。自分に必要なことを考え、主体的に取り組める生徒が高い正答率を得ている。
生活状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回っている。 ・地域の行事、活動に参加している生徒の割合は、全国平均を上回っている。

2 岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

- (1) 国語、算数・数学、理科における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握します。
- (2) (1)の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事等が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりします。
- (3) 各学校で行っている「教育診断アンケート(学校評価)」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むよう指示します。
- (4) 教育委員会と学校は、家庭や地域と連携しながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていきます。

3 留意点

- (1) この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものです。
- (2) この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部です。
- (3) 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努めます。
- (4) 家庭では、得意なこと・不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲をもって取り組める励ましや環境づくりをお願いします。